

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2019年 7月 2日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	義村 弘仁

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
新潟県妙高市	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
笹ヶ峰実習 (無雪期)	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
2019年 6月28日 ~ 2019年7月1日 (4日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学笹ヶ峰ヒュッテ	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
<p>写真 (必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p>	
<p>今回の渡航では、新潟県の妙高高原にて無雪期の山岳実習を行なった。野生のニホンザルを初めて観察し、これまで観察してきた餌付け群と比べて人間の動きや音への敏感さを感じた。他にも高山特有の様々な動植物を観察することができた。</p> <p>3日目の火打山登山では、天候の影響で登頂はできなかったものの、天狗の庭まで登山し、残雪の上を歩くという得難い経験をした。天狗の庭では一時的な晴れ間に火打山の山頂を望むことができ、日本の山の美しさを感じた。また、山を歩く中で、我々は雪崩や土砂崩れが起きないように環境を整備していく必要があるように感じるが、地元住民は雪崩が起きて木が倒れると、ギャップや倒木に生えてくるキノコや山菜を期待するという話を聞き、環境や景観の保全を考える上で実際に住んでいる人々の視点を持つことの重要性を実感した。</p> <p>最終日には地獄谷のニホンザルを観察した。幸島や嵐山の餌付け群と比べて、人に対する関心の低さが印象的だった。出産シーズンのすぐ後だったので多くのコドモを間近で観察することができたことは幸運だった。</p> <p>また、今回の実習では霊長類研究所やその他の機関の参加者との交流も一つの楽しみだった。食事の際に文化の違いを感じたり、今後の研究に役立つ情報を得ることができたりと非常に有意義であった。</p>	 <p>図1：火打山を望む</p>  <p>図2：地獄谷のニホンザル</p>
6. その他 (特記事項など)	